

第65回 国際理解・国際協力・多文化共生のための全国中学生作文コンテスト東京都大会 銀賞

白百合学園中学校 2年

高野 ソフィー

課題①

あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。

副題

なし

私が考える平和とは、誰もが誰もの存在を尊重し合えることだ。なぜこう考えるのかというと、よくある多様性や平和の考え方の一つである、「みんな違ってみんないい」という考えに疑問を持ったからだ。世の中には様々な考え方や意見が存在し、その一つづつに利点、欠点がある。そのため、沢山ある意見の全てを良いとして納得することは無理があると思った。現に、相手と意見が違った時、相手の意見の全てを理解したり、それぞれの意見の違いをそのまま受け入れることは決して楽なことではない。だからこそ、自分の考えを相手に分かってもらおうと押しつけてしまうことがある。このことを特に強く感じるのは、近年のSNSだ。

SNSは、その匿名性や様々な意見をすぐに共有することができる利便性から、多くの人々に利用されている。私もその一人だ。だからこそ感じるのは匿名性の悪用だ。相手からは自分が誰か知ることができないことを利用し、面と向かっては言えないであろう誹謗中傷や煽りといった言葉も、簡単に投稿できて相手に届いてしまう。このようなことが原因となり自分の命を自らの手で絶ってしまう人も多くいる中、未だこのような投稿がされ続けている。この理由として、承認欲求や自分の意見の正当化といった、意見を見てほしかったり認めてほしかったりする強い気持ちが一つに挙げられる。これは皮肉にも意見の存在を認められなかつたが故の気持ちであり、その気持ちがまた他の誰かの意見を否定することになると、いう負の循環になってしまっている。だからこそ誰かが少しずつでも方向を変える必要があるのだ。

変える策として挙げられるのが、相手がいることを理解するということだ。一見簡単なことのように思えるが、実行するのはとても難しい。現に学生として学校生活を送っていると、真っ向から意見を否定されたり、強引な人に話しかけられて価値観をおしつけられたりすることが時々ある。だが、決してこのようなことは個人の関係に限ったことではない。実際、今世界中で様々な争いが起きていて、原因として宗教や文

化、国の方針の違いがあることが挙げられる。しかし、互いの違いを受け入れていないだけでなく、武力でねじ伏せるという平和とはかけ離れた手段を使ってしまっている。そのような時、自分が思ったことをそのまま言ったり実行したりするしてはいけない。相手が存在するからこそ、相手だって自分と同じように自らの考えを持ち、感情があると考えてみれば、一度立ち止まってみることができるのだろう。

最後に、「みんな違ってみんないい」という考え方は完全に間違っている訳ではない。しかし、そう綺麗にまとめられるほど簡単なことでもないのだ。だからこそ、相手の意見の全てに納得することは難しい。それでも相手が自分と同じように存在していて、それを心から認めて否定しない。これこそが私の思う平和だ。そしてこれらを現実にするためには、少しでも自分から始めることが大切だ。私も、完璧にはできなくとも実行し続けようと思う。恐らくそれが平和への一番の近道であると私は考える。